

2019年7月号

7月15日(月)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 274



虫がつなく命…

タヌキモが今年も花をつけ、さっそく蜜を探しに来たのか、アブの仲間が頭を突っ込んでいました。森の茂みでは昆虫をくわえて移動する鳥の姿を見かけるようになりました。せっせと我が子のもとへ餌を運んでいるのでしょう。ミズゴケ湿原ではガガンボを捕えたモウセンゴケ。こうして見ると、虫たちがたくさんの生命を繋いでいるのがわかります。

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の自然～



【ホザキシモツケ】
バラ科 穂咲下野
小さなピンク色の花が集まって咲いています。木道から近い所でも咲くので、ぜひ近寄って観察してみてください。



【エゾノシモツケソウ】
バラ科 蝦夷下野草
左の種と名前も花も似ていますが、手のひらのような形(掌状)の葉が本種の特徴です。両種とも雄しべもピンク色をしています。



準絶滅危惧種

【トキシソウ】
ラン科 朱鷲草
ミズゴケ湿原に咲くラン科の花です。鳥の朱鷲のような色をしていることからこの名がついています。足下をよく探してみましょう。



【オニノヤガラ】
ラン科 鬼矢柄
同じラン科のトキシソウとは随分と様子が違います。こちらは地中の菌を栄養にする、葉緑体を持たない腐生植物の一種です。



【コタヌキモ】
タヌキモ科 小狸藻
湿原の一角で毎年花を咲かせますが、気づかずに素通りしてしまう人も多いと思います。水中の枝に捕虫囊を持つ食虫植物です。



絶滅危惧Ⅱ類

【エゾムグラ】
アカネ科 蝦夷葎
鶴居軌道の脇などで可憐に咲くアカネ科の花です。温根内周辺では比較的普通に見かけますが、絶滅危惧種に指定されています。

○表紙の写真 上：タヌキモの花 中右：モウセンゴケの葉 中左：センダイムシクイ 下：コキマダラセセリ

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

温根内周辺では徐々に鳥たちの囀る声が聞かれなくなり、その代わりに巣立った雛の鳴声や姿がたびたび確認できるようになっています。うまく飛べない雛鳥がいても必ずそばに親鳥がいますので、そっと見守ってあげてください。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸出しております。お気軽に職員までお申し付けください。



【コヨシキリ】 夏鳥
ヨシキリ科 小葦切
ヨシ原の中からけたたましく囀る声が聞こえてきます。時には「チャッ、チャッ…」という地鳴きも聞こえます。



【カッコウ】 夏鳥
カッコウ科 郭公
他の鳥の巣に卵を産みつけ子育てを任せる「托卵」をします。時にはその托卵対象のノビタキに追い回される様子も見られます。



【ニューナイスズメ】 夏鳥
スズメ科 入内雀
森の近くでスズメとよく似た鳴声でしたら、本種の可能性があります。メスは眉斑と呼ばれる目の上の白いラインが特徴です。



【ノゴマ】 夏鳥
ヒタキ科 野駒
オスは喉元の赤色がとても目を引きます。餌の昆虫をくわえて去って行ったので子育てをしていたのかもしれない。

○温根内探勝木道周辺で観察された花（6月15日～7月14日）※和名は五十音順 * 外来種

■アカネムグラ■アキカラマツ■イグサ■イケマ■イワノガリヤス■ウマノミツバ■エゾイヌゴマ■エゾイラクサ■エゾオオバコ■エゾオオヤマハコベ■エゾカラマツ■エゾタチカタバミ■エゾノカワヂシャ■エゾノギギシ*■エゾノクサイチゴ■エゾノシモツケソウ■エゾノレンリソウ■エゾムグラ■エンコウソウ■オオカサスゲ■オオカワズスゲ■オオダイコンソウ■オオバコ■オオバタネツケバナ■オオハナウド■オオマルバノホロシ■オオヤマフスマ■オトギリソウ■オニグルミ■オニノヤガラ■カキツバタ■カラコギカエデ■カラフトイソツツジ■カラフトノダイオウ■キクムグラ■キツネノボタン■クサフジ■クサヨシ■クスダマツメクサ*■クリイロスゲ■クリンソウ■コクワ（サルナシ）■コタヌキモ■コツマトリソウ■コンロンソウ■サギスゲ■シオガマギク■シコタンキンボウゲ■シロツメクサ*■スカシタゴボウ■スズメノカタビラ■スズメノヤリ■セイヨウタンポポ*■セイヨウノコギリソウ*■タヌキモ■チシマアザミ■チシマノガリヤス■ツリバナ■ツルアジサイ■ツルウメモドキ■ツルコケモモ■トキソウ■ドクゼリ■ナガバツメクサ■ナズナ■ナンバンハコベ■バイケイソウ■ハシドイ■ハナタネツケバナ■ハルザキヤマガラシ*■ヒメカイウ■ヒメジョオン*■ヒメスイバ*■ホザキシモツケ■ホソバノシバナ■ホソバノヨツバムグラ■マイヅルソウ■マツヨイセンノウ*■マムシグサ■マユミ■ミソガワソウ■ミツガシワ■ミツバウツギ■ミミナグサ■ミヤママタタビ■ムジナスゲ■ムラサキツメクサ*■ヤナギトラノオ■ヤマブキシヨウマ■ヤマブドウ■ヤラメスゲ■ユキザサ

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（6月15日～7月14日）和名は日本鳥類目録第7版の順

■マガモ■キジバト■アオバト■アオサギ■タンチョウ■クイナ■ツツドリ■カッコウ■ハリオアマツバメ（6/23初認）■アマツバメ（6/27初認）■オオジシギ■トビ■オジロワシ■オオタカ■アリスイ■コゲラ■アカゲラ■モズ■ハシボソガラス■ハシブトガラス■クイタダキ■ハシブトガラ■ヒガラ■シジュウカラ■ショウドウツバメ（6/27初認）■ヒヨドリ■ウグイス■ヤブサメ■エナガ■エゾムシクイ■センダイムシクイ■メジロ■マキノセンニュウ■シマセンニュウ■コヨシキリ■ゴジュウカラ■キバシリ■コムクドリ■クロツグミ■アカハラ■ノゴマ■コルリ■ノビタキ■コサメビタキ■キビタキ■オオルリ■ニューナイスズメ■ピンズイ■カワラヒワ■マヒワ■ベニマシコ■アオジ■オオジュリン

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いいたします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いいたします。

☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

◎『夏の花を見に行こう』7月7日 参加者：21名

植物の専門家の大西氏に講師をお願いし、夏の釧路湿原の花々を観察する会を行いました。まず木道の入口ではマメ科のエゾノレンリソウが咲き始め、レンリ（連理）という名がついた意味を教えてくださいました。ヨシ・スゲ湿原では、群落を作るアヤメ科のカキツバタの花の構造をじっくりと観察しました。また、ミズゴケ湿原ではトキソウの花がちょうど見頃を迎えており、参加者の目を楽しませていました。今回はミズゴケ湿原をもう少し先へ進み、ひっそりと咲くコタヌキモの花とその捕虫囊^{ほちゅうのう}を観察し、食虫植物の生存戦略を学びました。木道の帰り際には葉を落とし始めたハンノキに触れ、窒素を固定する機能を持つ栄養豊富なハンノキの枯れ葉が優秀な肥料としても使われる、といった興味深いお話もたくさんしていただきました。見るだけでも楽しい花から、植物の深い話まで盛りだくさんの観察会となりました。



☆☆☆☆☆ 温根内イベントカレンダー（8月） ☆☆☆☆☆

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4 ♪盛夏の花を見に行こう	5	6 臨時開館日	7	8	9	10
11 ♪ザリガニウォッチング	12	13 臨時開館日	14	15	16	17 ♪PVスポットガイド
18	19	20 臨時開館日	21	22	23	24
25	26	27 臨時開館日	28	29	30	31

- ♪ 8/4(日) 盛夏の花を見に行こう：10:00～12:00 (定員15名、要申込み)
- ♪ 8/11(日) ザリガニウォッチング～ウチダザリガニ編～：10:00～12:00 (定員15名、要申込み)
- ♪ 8/17(土) PVスポットガイド：9:00～13:00 釧路湿原のパークボランティア(PV)の方々が、木道上的見どころのあるスポットでガイドをしてくれます。(申込み不要)

☆☆☆☆☆ イベントのご案内（8月） 事前の申し込みが必要です ☆☆☆☆☆

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み ☎ 015-487-3003

♪ 釧路湿原 自然と歴史を訪ねて

〔日時〕 8月10日(土) 10:00～12:00 〔定員〕 10名(小学生は保護者同伴)
〔参加費〕 無料 〔集合場所〕 旧憩の家かや沼駐車場

～熱中症に注意しましょう～

北海道とはいえ、夏場は気温が30℃前後になる日もあります。また曇っていてもかなり蒸し暑く感じる時もあります。こまめに水分・塩分補給をして木道散策をお楽しみください。



月刊 温根内通信 No.274

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター
〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内
Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185
E-mail：ovc@hokkai.or.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

Facebook：温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間：9:00～17:00(11月～3月は16:00まで)
休館日：毎週火曜日(12/29～1/3は休館) 入館無料